

No. 1309

“江川ショック”響く巨人

プロ野球界を大きな社会問題にまでまきこんだ江川の巨人トレード劇に一応の決着をつけるプロ野球実行委員会は2月8日東京・芝の東京グランドホテルで開かれ、小林—江川のトレードは白紙撤回となった。が現実的な解決策として小林のトレードを認め江川は4月7日まで認めない、ことを可決した。宮崎行きを心待ちしていた江川は「実行委で決めた事だから」とあきらめ、一人小山市の球場で練習に励んでいるが、地元ファンの風当たりも強く、厳しい日々だ。

一方、宮崎のキャンプでは江川ショックが尾を引き長島監督から笑顔が消えた。小林の抜けた投手陣も苦しそうだ。広岡ヤクルトにペナントをさらわれた昨シーズンの雪辱に燃えるはずのキャンプ。計画が大きく狂い前途厳しい巨人だ。

優勝めざして

—中日ドラゴンズ—

フェニックスの木々が早春の日射しに映える南国宮崎。温暖な気候がいやがうえにも球春を高める。鹿児島県に近い串間、中日ドラゴンズのキャンプは順調に進んでいる。監督2年目の中監督は「去年は掛川の寒さで思うように出来なかったが今年は天候にも恵まれ、すべて順調です。」と力強い。密度の濃い野球をめざしてサインプレーがくり返される。やはり政守のかなめは高木守道だ。

両外人には四番の座は渡さない、一塁・四番候補、大島。あいかわらずシェアーなバッティングを見せる田尾、藤波。投手陣ではドラフト一位入団高橋、がフリーバッティングに登場、実戦の感じをつかもうと懸命だ。藤沢のコントロールのよさも、稲尾コーチをよろこばせている。鈴木孝、星野仙の両輪も、今年は昨年のような事はない、と頼もしい。優勝めざして一丸となる中日ドラゴンズだ。